

2007

慢性完全閉塞 (CTO) における CT-guide PCI の有用性

¹一宮市立市民病院

長谷川 謙司¹、山田 晃弘¹、稲波 由浩¹、長谷川 光太郎¹、柴田 義久¹

【背景】最近では、慢性完全閉塞 (以下 CTO) の冠動脈インターベンション (以下 PCI) において、冠動脈 CT を事前に撮影する事により、術前戦略の役に立ち、更に CT ガイド下による PCI を行うことも多くなり、CTO 治療に対する冠動脈 CT の役割は大変重要なものとなってきている。

【目的】当院において、CTO 病変の PCI における冠動脈 CT の有用性を検討する。

【方法】2011 年 4 月～2012 年 3 月までに、CTO 病変に対して待機的に PCI を施行した 54 症例について、事前に CT を行った群を CT 群、行わなかった群を non-CT 群 (CT 群: 21 症例、non-CT 群: 33 症例) とし、透視時間、AK 値、造影剤使用量、検査時間、成功率などを比較検討する。

【結果】透視時間は CT 群: 54.6±27.9 分、non-CT 群: 75.6±38.4 分 (p=0.032)、AK 値は、CT 群: 2052±795mG y、non-CT 群: 3230±1594mG y (p=0.002)、造影剤使用量は、CT 群: 134.5±48.0ml、non-CT 群: 186.2±56.1ml (p=0.025)、検査時間は CT 群: 123±40.9 分、non-CT 群: 162.2±57.9 分 (p=0.0075) となり、いずれも CT 群が有意に低値を示した。成功率に関しては、CT 群: 85.8%、non-CT 群: 80.3% (p=0.949) となり差は見られなかった。

【考察】今回の検討により CTO 病変における PCI において透視時間、AK 値、造影剤使用量、検査時間において CT が有用であることが分かったが、成功率においては有意差を認めなかった。しかし、冠動脈 CT を事前に撮影することで、冠動脈の情報は勿論のこと、今回の結果より、質の高い PCI を行うための役割を果たしていると考えられる。